



## 高知市教育研究所研究員「中間報告会」～研究の中間発表～

平成26年8月15日(金)

今年度、25名の研究員が、教育課程や学習指導法、学校・学級経営などについて、専門的な見地から調査・研究を行い、研究の成果を広く高知市全体に普及することをめざします。それぞれの研究員の「中間報告会」での発表の要点をご紹介します。

### 学級経営 (教育相談)

「あったかアンケート(小学校)」や「Q-U」の分析をもとに、課題にあった人間関係づくりプログラムを行い、学習活動や学校行事等に意図的に生かしていく方法について研究をします。

小林 由起 (江ノ口小) 山本 幹丈 (大津小)  
弘瀬 直美 (潮江南小)

アセスメントツールの結果を、生徒と共有し、生徒とともに学級を成長させる取組を考えていくことで、自治的な集団づくり、学級経営の充実をめざします。

大森 由佳 (城北中) 楠目 安由 (三里中)  
建沼 友子 (西部中)

### 授業研究

#### 算数・数学科

算数・数学科における確かな学力の定着をめざし、目的に応じ数学的表現力を育むための課題及び授業づくりについて研究をします。

松本 洋子 (鴨田小) 丸橋 美月 (神田小)  
大石 裕千 (西部中)



#### 国語科

「与えられた条件に応じて書く」ことができる児童・生徒の育成に向けて、小・中9年間の系統を意識したうえで、授業において、これらの力をつけていくための課題等の開発に取り組んでいきます。

守屋 治栄 (江陽小) 堀内 奈央 (潮江東小)  
岩城 あや (一宮中) 北岡 郁子 (大津中)

### 人権教育

校内の人権教育を土台とした「不登校ゼロ」をめざす取組について研究を進めます。

久武 英夫 (春野西小)

### 学校事務

学校事務における小・中の連携を進め、高知市全体の学校事務の均質化及び事務職員の資質向上、「学びを支援する」学校事務をめざしています。

岡林 幸恵 (横浜小) 森 あづさ (横浜中)

### 特別支援教育

「ここにあったか!お助け生単箱」等を活用し、介良中学校区の小・中3校において、授業実践交流を行い、新たな授業づくりや教材・教具の工夫・改善に取り組みます。

濱田 朱美 (介良小) 菊池 一朗 (介良潮見台小) 百田 博臣 (介良中)



児童・生徒の教育的ニーズに応じた「できる状況づくり」を追究し、支援の在り方について研究を進めます。

大崎 みちる (市立養護学校)

視覚的な支援を行うことで、特別な支援を必要とする子どもだけでなく、すべての子どもが安心して過ごせる環境づくりについて研究をします。

池田 美由希 (子ども育成課 ひまわり園)

### 情報教育 (ICTの活用)

ユニバーサルデザインの視点を踏まえた「考える」授業づくりをめざして、ICT機器を活用した視覚支援の方法について研究を行います。

谷中 隆 (潮江東小)

算数科におけるICT機器の活用方法を研究し、児童一人ひとりの学習意欲を高める授業づくりについて研究をします。

岡本 政則 (潮江南小)

社会科におけるICT機器の活用方法について研究し、ICT機器を効果的に活用した授業展開の工夫、思考力・表現力の育成をめざします。

西村 庸輔 (神田小)

理科教育において、生徒の自ら学ぶ力を高めるために、電子黒板や書画カメラを利用して、話し合い活動の活性化に取り組みます。

広瀬 貴大 (一宮中)



1年間の研究成果を発表する「終了式」を平成27年2月13日(金)に行います。

# 防災教育推進教員研修会

平成26年8月5日(火)実施

## 防災教育の進め方～防災の授業づくり～

高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

「高知県安全教育プログラム」の活用について講話をいただき、演習では、各グループで具体的な指導事例の作成を行いました。

### 【すべての子どもに身に付けさせたい基本的な内容～助かる人・助ける人になるために～】

- 自ら判断し、的確に行動できる力を育てる
- 地域社会の安全に貢献しようとする心を育てる
- 小学校（低・中・高学年）・中学校・高等学校の発達段階に応じた内容  
『自分の身を守る、必ず助かる』⇒『自分にできる、助ける行動へ』

#### 防災教育の時間(年間)

小・中学校では5・6時間  
防災の授業を！

### 「高知県安全教育プログラム」に基づく防災教育の徹底

- ◆ さまざまな場面を想定した避難訓練を実施
  - ・ 登校時、休み時間など
  - ・ 保護者への引渡し ・ 緊急地震速報
- ◆ 訓練と学習を効果的に関連付けた取組
  - ・ 判断の基となる正しい理解、自らの行動を決定
- ◆ 関係機関や家庭・地域との連携
  - ・ 防災学習のあと家庭で防災会議を開く⇒行動化
  - ・ 地域との合同訓練
  - ・ 保小中高との合同訓練

### 各校のマニュアル作成の留意点

- ◆ あらゆる場面を想定して行う
  - ・ 休み時間、登下校時、スクールバス乗車時など
- ◆ 組織体制
  - ・ 指揮命令者・参集など
  - ・ 保護者への引渡し訓練
- ◆ 計画的な防災体制の確立



**訓練を通して毎年見直しが必要！**

### 被災後の命を守る～避難所運営と地域防災～

講師：NPO高知市民会議 山崎 水紀夫 理事

#### 【避難所運営について】

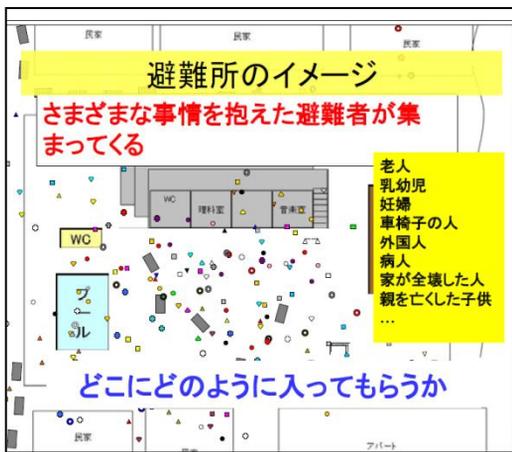
- 1 避難所の運営は命の問題である
- 2 運営は地域住民による自主運営
- 3 限られた資源（物資）をどう分配するか
- 4 女性を必ず中心メンバーに加える
- 5 避難者をお客さんにしない

#### 【避難所として使用する『学校』の役割】

- ・ 学校が避難所だから、教職員が主体となって動く。 ⇒×
  - ・ 運営は地域住民による自主運営である。避難者を含め全員が協力する。 ⇒○
- ★ 学校は施設管理者であり、各場所をどう使ってもらうか、避難所運営の企画を行う

### ■ 演習 避難所運営ゲーム HUG (ハグ)

避難者（避難者カード）の年齢、性別、それぞれが抱える事情や要援護者への配慮をしながら、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に避難者カードを配置できるか、また避難所で起こるさまざまな出来事（イベントカード）にどう対応していくかを疑似体験する演習をグループで行いました。



#### 避難者カード

54 世帯番号[14]  
南田1537[南田2班]  
ふんか  
**噴火さん**  
[女26歳]半壊  
母、世帯主、妻  
世帯主の妻は妊娠6ヶ月。ねこ1匹を連れてきた。

配置

#### 〈受講者の感想〉

- ・ 高知県安全教育プログラムの活用の仕方や指導事例を知ることができてよかった。学年、学校の実態に合った授業展開ができそうなので実践してみたい。
- ・ HUGでは、必死になればなるほど、みんなが自分の考えを譲れず、決定できないことがあった。見通しのない中で優先順位をどうするのか、悩むことがこんなに多いということが分かった。校内研修で是非やってみたい。
- ・ 本校でも地域と連携して、避難所運営についてマニュアルを作ることになっているので、今回の研修は大変参考になった。山崎先生のお話がとても分かりやすかった。